

別記様式（第3条関係）

会 議 録

1 会 議 の 名 称

令和3年度第1回石岡市男女共同参画審議会

2 開 催 日 時

令和3年7月20日（火）午前10時00分から午前11時50分まで

3 開 催 場 所

石岡市役所 本庁2階 201会議室

4 出席した者の氏名

清山委員，廣澤委員，古谷野委員，高城委員，松本委員，谷島委員，安達委員，中嶋委員
櫻井委員（委員9名）

事務局：加藤公室長，神谷次長，細谷課長，増田課長補佐，大関係長，前野主幹

5 議 題

- （1）令和2年度実施事業について
- （2）成果指標の進捗状況とイクボスアンケート結果について
- （3）令和3年度実施予定事業について
- （4）後期実施計画策定のためのアンケート調査について

6 審 議 の 内 容

議事録のとおり

7 担 当 課 の 名 称

市長公室 政策企画課

1. 開会

2. 挨拶

清山会長より挨拶

3. 議事

清山会長により議事の進行

■（1）令和2年度実施事業について

事務局：資料1に基づき説明

委員：第3子以降の保育料軽減についてなぜ実績なしとなっている。

事務局：石岡市に第3子の子どもを育てている人がいないのではなく、国や県の制度において無償化制度を利用して、市独自の制度を利用している実績がない状況。

委員：給食費軽減についても第3子以降に対し対象としているが第3子が特別支援学校に通学している生徒には、対象となっていない。今後、検討してほしい。

事務局：教育委員会でも検討している状況。

会長：病後児保育事業については、定員があると良いのではないか。

委員：病後児保育は、今年3月で実施施設がなくなっていると聞いている。

事務局：病後児保育については、探している状況。引き続き、ご意見・要望を聞きながら開設に向けて調整していく。

会長：家族介護支援事業について仕事と介護を両立するために働いている人が介護技術を向上させる意識で行ってもらうことも大切。実態把握のために仕事と介護を両立する人と施設での調査も必要になってくる。

■成果指標の進捗状況とイクボスアンケート結果について

事務局：資料2・3に基づき説明

会長：イクボスアンケートの内容については、職場の現状がでていて今後の取り組み参考になるアンケートになったのではないか。

委員：あらゆる分野での女性の活躍促進の成果指標について市の審議会等委員に占める女性の割合については、行政の働きかけで推進できる部分ではないか。審議会の改選時に政策企画課でも協議を行う仕組みづくりや女性を増やす意識改革ができるように取り組むべき。

また、市の男性職員の育児休業取得率も取得率は上がっているが人数は一昨年と同じで分母が変わっただけになっている。イクボスアンケート結果の中で今後働き方改革を一層進める上で必要と思われる取り組みについて、1位は休業者が出て業務をすすめられるチームワークとなっているので課内同士のコミュニケーションが必要だと思う。対象職員を把握できていないのが管理職の課題で、まわりの職員にも結婚して子どもができれば育児休業取得するのは、当たり前と思う環境にし

ていけないといけない。組織としての働きかけをしていけないといけない。

会 長：茨城県の取り組みも参考にしながら対応してほしい。

委 員：次世代認定マーク（くるみん）取得企業数について、目標値が4社目標にしているのにも関わらず初期値の2社から増えていない状況で、働きかけを行うべきではないか。

会 長：対象になりそうな企業をピックアップしてその企業に呼び掛けたり、協会や協議会で推薦してもらい、取得しやすい資料を作成すべきではないか。

委 員：企業は、様々な取り組みを行っているが企業が積極的にくるみんマークを取得するメリットがわからない。一般の方のくるみんマーク認識もないのではないか。

会 長：学生は、くるみんマークを認識している。くるみんマークに子育てサポートしていますと明記しているため子育てしていても働きやすい職場だとわかるようになっている。企業にとってどういうメリットがあるのかの啓発活動も必要ではないか。

委 員：男性職員の育児休業等取得にむけた取り組みとして、個別に声掛けを行っているはずが、イクボスのアンケートを見ると育児休暇取得にむけた働きかけを行っていない人が半数で部下の育児休業取得を希望した時の対応として応援すると回答している人が半数しかいない状況は、まずい。

委 員：トップダウンで市長が育児休業を取りなさいと話すべきではないか。取りやすい時間単位で取れるといい。

委 員：家庭によって必要としている時間が違うと思うので時間単位で休暇が取れると取りやすくなるのではないか。

委 員：私が第一子を出産した際、初めての経験で生活が大きく変わった。産まれる前にスケジューリングや上司とのヒアリング、制度について丁寧に伝える場が必要だと思う。全体の意識改革が必要だけでも各個人に対しての啓発を行うべきである。

委 員：イクボスアンケートでは、9割が男性の育児休業を賛成していることや男性の育児休業等取得推進に向けた取り組みに対して要望も出ていることから全庁でフィードバックもしっかりしてほしい。

委 員：農業委員に占める女性の割合について女性が0%になっていて残念。女性1人で委員として発言するのは難しい。少なくとも2人以上委員が必要だと感じる。

■令和3年度実施予定事業（政策企画課）について

事務局：資料4に基づき説明

委 員：家庭相談事業について前年度の件数が多い。子どもを取り巻くさまざまな問題に対し悩みを持つ家庭が少しでも少なるように取り組んでほしい。

会 長：子どもが取り巻く環境が深刻で、発達するための支援だけでなく生活も支援できるようにチームでサポートしなければならない。親も仕事をしながら経済的にも厳しく、育児に疲労を感じている人も多い。子どもの安全・安心が親の仕事と育児の両立とでセットになっている。

委 員：小・中学生への出前講座の実施について令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、開催見送りとなったため今年度は、開催してほしい。学校も新型コロナウイルスの感染拡大防止のための対策がされてきているため直接職員が話してきてほしい。

事務局：今後、リモートで調整するなど開催できるように検討する。

委員：デートDV防止へ向けた啓発についてチラシの配布が成人式に配布になっていて対象者はもっと若い人の方が良いのではないかと。高校生・中学生にも配布してみてもどうか。

事務局：高校の配布についても検討する。

会長：ハラスメント防止研修については、いつも管理職のみを対象としているのか。同僚からもハラスメントを訴える人が増えている。若手職員にも啓発することでハラスメントが起これない環境になるのではないかと。

事務局：管理職になれば集中的に研修は受けることになるが、若い世代からの啓発の重要性は、感じている。今後、担当課と協議していきたい。

■後期実施計画策定のためのアンケート調査について

事務局：資料5に基づき説明

委員：小・中学生のアンケートについて、中学生は自力で回答することができるが小学4年生については、自力でアンケートを回答するのは難しいのではないかと。家庭で親と一緒にアンケートを回答してもらおうようにするのか。

事務局：学校を通じて、授業を使って回答してもらおうことを想定している。

委員：家庭で行えば、親の意識づくりにも繋がる。学校で行えば言葉の意味の指導が入ることになるのでそこを踏まえて回答方法を考える必要がある。

委員：前回のアンケートでは高齢者の回答が多かったため、できる限り若い世代に回答してもらえようように抽出方法の段階で割り振りを検討すべきである。

委員：新しい項目にLGBTの設問が入っているのにも関わらず、性別の記載について、性別の二択になっているので三択での回答も検討すべきではないかと。逆に回答する人に対しても認識につながるのではないかと。

会長：その他の項目を作成した場合、結果に反映できない場合があるが潜在的に状況がわかる。

事務局：性別の記載に関しては、何らかの配慮をして項目を作成するように検討していく。

5. その他

事務局：第2回男女共同参画審議会は、来年1月から2月頃を予定している。

6. 閉会